

2021 年度 トップアーチャー対談

普及委員長 榎山竜誠
渉外委員長 松本菜沙

例年、関西学生アーチェリー連盟インドア選手権大会決勝で実施していたトップアーチャー対談ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対談選手にアンケートを記入していただく形での実施となりました。

今回は男子3選手、女子3選手にアンケートを実施しました。ご協力いただいた選手の皆さん、ありがとうございました。

アンケート日：2021年12月25・26日

対談選手：岩崎 智仁 選手（京都産業大学3回生）

白丸 凌太郎 選手（近畿大学1回生）

藤井 望 選手（近畿大学2回生）

上原 瑠果 選手（同志社大学2回生）

加藤 帆乃香 選手（近畿大学1回生）

眞弓 怜奈 選手（近畿大学2回生）

※学年はアンケート実施当時の学年を記載

1. 大会や試合で緊張した時にどのようなことを意識

または、考えるようにしていますか？

岩崎選手

緊張している自分を否定しないことを意識しています。私の性格上緊張しないことは難しいので、そこで無理矢理早く打とうとしたり、クリッカーを切りに行こうとしたりせず、体がリラックスできるまで時間をかけています。

白丸選手

普段の練習で言われていることや、意識していることを一つ一つ確認しながら射っています。練習通りに射つことを意識しています。

藤井選手

練習のように射てるように意識しています。

上原選手

10点に入るイメージをしています。深呼吸をしたり、意識しているポイントを確実に実行したりするようにしています。

加藤選手

練習で言われたことを思い出しています。

眞弓選手

的に意識がいけないように射ち方を意識しています。

2. 射型や大会でのメンタルコントロールなど

アーチェリーという競技に関して自信があることを教えてください。

岩崎選手

押し手引き手のバランスが整っていることです。リリースにキレがあります。

白丸選手

エームオフが得意ですが、明らかに緩んだ一射でも高い点数に近づけることができるところが自分の強みだと思っています。射型の面では押し手の作り方に自信があります。

藤井選手

自信があるわけではないがほかの大学よりも多くの練習をしていたり一本一本毎日意識していることを続けたりしていることで自信に繋がっているのかなと思います。

上原選手

試合と練習で点数が変わらないことです。(試合の方が点数が高いこともある。) 集中力もあります。

加藤選手

ほかの人より練習したことを自信にしています。

眞弓選手

悪い点を売った後の切り替えには自信があります。

3. アーチェリーを始めたきっかけは何ですか？

岩崎選手

中学校にアーチェリー部があり、また、知り合いでアーチェリーをやっていた人がいて道具を譲ってもらえたからです。

白丸選手

高校に入学した際には知りたくなかったので、走らなくてもいいようなスポーツがないか探したところアーチェリーがありました。

藤井選手

父の知り合いが誘ってくれました。

上原選手

中学校入学時にアーチェリー部があり、珍しいのとかっこよかったからです。

加藤選手

ロンドンのオリンピックを見て始めました。

眞弓選手

中学の時高校の部活動体験です。

4. 自粛期間なので家にいた時にしていたトレーニングなどを教えてください。

岩崎選手

自重トレーニング、体幹、近射

白丸選手

腕立て伏せ

藤井選手

懸垂、腕立て伏せ

上原選手

特に通常と変わらず腕立て伏せやスクワット、体幹トレーニングなどを行っていた。近射の本数を増やしていた。

加藤選手

腕立て伏せ

眞弓選手

腕立て伏せ

5. 現在の目標を教えてください。

岩崎選手

ナショナルチームに入ることと、全国大会で入賞することです。

白丸選手

ナショナルチームに入ることです。

藤井選手

王座・インカレ・全日優勝です。

上原選手

全日本室内優勝、来年の関個インドアは優勝します。

加藤選手

選考会です。

眞弓選手

来年の選考会に出てナショナルチームに入ることです。

選手の皆さん、お忙しい中アンケートへご協力いただき、

ありがとうございました。

皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。